



平成9年分 過去問冊子の使い方・アドバイス

夏休みのうちに公立高校の過去問を解くことはとても効果的です。公立高校の普通科を受験する人は言わずもがな、それ以上の難関校を受験する人にとっても基礎の確認としてベストです。高倉塾に通う高校受験生は、ここに書くアドバイスを参考にして夏休みから過去問演習に励みなさい。

総則(全体的なルール)

1. 解答は冊子にそのまま書き込んでよいが、受験まで何度も繰り返し解くものであるから、計算やメモなどごちゃごちゃするものはノートに書くこと。どうしても書き込んで考えなければならないものは、薄く書いて後で消せばよい。
2. 過去問は全て、単元と年度によって整理されている。問題を解いたら、表紙の問題番号横に解いた日付をメモしておくこと。全てに日付が3回書いてある状態をイメージして取り組む。「いつ、何回解いたのか」も把握できない怠け者は成功をつかめない。
3. 解説してもらわなければ分からないような問題には、自分なりの分かりやすい要チェックマークをつけること。これも表紙の問題番号に書いておくとよい。「なんとなく分かった」など、自分に甘い「分かった」判定をして放置する者は合格を逃す。
4. 夏休みまでに習っている範囲は、夏休みまでに1周は終わらせよ。この程よいレベルの過去問は、早く終わらせるほどに模試の結果、合格の確率も明らかに高い。

数学

【計算と小問】は、スピーディに全問正解できるまでやれ。絶対に計算ミスをするな。全問正解であっても、ゆっくり解いていたのでは全く意味がないことを忘れるな。その他の単元は、苦手なものがあれば新中間にもどって一から修行せよ。授業や自習、studyplusの投稿なども利用して理解を深めよ。



英語

英語の長文は、問題用紙に答えが書いてあるのだから、英語はトレーニングするほどに高得点が取れる。強い者はかなり合格に有利となる。一問ずつ時間を計測して解き、最後のページにある記録表に得点とタイムを記録せよ。読むスピードが遅いと英語で点は取れない。また、全ての長文に一文一文の精読解説動画があるので、長文読解が苦手な者や絶対に志望校に合格したい者は必ず集中して見ること。英語長文が楽になる。

理科

自分の得意な単元から解き始めて、難しい問題や解けなかった問題はテキストで確認し、自習や授業で講師に質問して解決しておくこと。「これでこの単元はパーフェクトだ」といえるまで解き、単元ごとに一つ一つ征服していくようにゲーム感覚で行うのがよい。「今週は天気の種類、来週は光・音の種類を徹底的にやろう」というように、期間ごとにテーマを作ること。

社会

【歴史】【地理】など単元が大まかであまり当てにはならない。充実させたい分野から行い、分からなかった部分は教科書やiワークなどのテキストに立ち返って確認を繰り返すこと。冊子に「iワーク p93」「教科書p34」のように、そのヒントが書かれたページをメモしておく、復習に非常に便利に使える冊子が完成する。自分なりに工夫して攻略すること。

国語

【論説文】は素早く解答することを意識し、間違えた部分は解説を読んだり授業で質問し、「なぜ間違えたのか」「なぜこの選択肢が正解なのか」といった理由を自分なりに考えておくことが進歩のポイントである。この論説文でしっかりと得点を稼げると、国語の得点が安定して合格確率がとても高くなる。【古文】も流れは同じである。解いてみて、間違えた部分は解説をしっかりと読むこと。